

学校点描

会議では卒業式の打ち合わせを何度も行いました。学校最大の行事が卒業式です。

《M中学校》

最終号

R5. 3. 12

担当：校長

S・Yさんが、県の書写展で『大風印刷賞』を受賞しました。また、Y新聞内陸版の題字もYさんの字が掲載される予定です。

2月27日に地区小・中・高校生徒指導連絡協議会に参加してきました。席上、S警察署の方から、今県内で未成年の非行グループが拡大化していることの報告がありました。LINE交換をしながら仲間を増やしているとのこと。先日、県内の女子生徒に裸体の画像を送らせて、児童ポルノ規制法で逮捕された少年や、深夜のコンビニ、ドラッグストア前のでたむろと万引きで捕まえた少年は、その非行グループに所属していたという話でした。いつ、M上地区にもそんな凶悪なグループの誘いがあるかわかりません。親として目を光らせる必要があるようです。比較的長い春休みがはじまります。

3月6日は午後から1学年のキャリア教育の一貫で、職業講話が開催されました。今年は2年生も1年生から誘いを受けて各教室に別れて話を聞きました。講師には、地域電力のA・Kさん、薬剤師のO・Jさん、映像制作・福祉のO・Tさん、会社役員のO・Tさん、サロン経営のS・Mさん、Fiesta管理人のK・Aさん、M上のくらし舎のY・Yさん、ソーシャルワーカーのS・Sさんをお招きしました。いずれの講師も話す内容はとても深く、仕事をする意義から人間関係づくりの重要性そして、この仕事をするに至ったご自身の人生の一部を紹介してくれました。ありがとうございました。

人生からの問い

今年最後のたよりは、ずっと年末から心に残っていたことを書いて終わりに載せましょう。

昨年の大晦日の話です。ゆっくり過ごそうと思って恒例の『NHK紅白歌合戦』をひとりで見ていました。それは番組の中で、ある演歌歌手のバックで、けん玉を連続で成功させるチャレンジが行われていました。この企画は、ギネスの世界記録に3年連続で成功しているそうです。ここに選ばれた128人の人たちは、みんなけん玉の腕に自信がある人なんだろうし、たくさんの練習で失敗することはないだろうなあ、そんな風に見ていました。ところが、歌が始まった数人目で芸能



人の男性が失敗してしまいます。でも、ルール上、10人目までは、やり直しができます。もう一度最初から再スタートされました。失敗した芸能人も2回目は成功。額には大汗が噴き出しています。全国の人が見ている前での失敗です。当然です。

なんだか、こちらが緊張して見入ってしまいます。そしてついに、16番目の、階段の途中にいた若い青年が、失敗してしまったのです。周りの挑戦者の人達は、この青年の失敗には気づいていません。歌も終わり。けん玉は、128人目である歌手本人が成功して、大喜びのガッツポーズで終わりました。「青年は、今どんなに辛い思いをしているだろうか」そんな思いになる大晦日のテレビでの出来事でした。先日、その青年のインタビューの記事と出会いました。青年は“しゅんさん”と呼ばれていました。記事を要約して載せてみます。

僕はもともと補欠要員で、誰か欠員が出たときに代わりに出場できるということでの参加でした。30日夜のリハーサル終了後、体調不良になった男性が出たことで、運営の方から『代わりに参加してください』と言われました。それで、その男性がつける予定だった『16番』を僕が代わりに背負うことになったのです。急に言われて、ドキッとはしたんですけど、僕は一昨年出場していて、その時は成功したんです。だから、落とすかもしれないみたいな不安は全然なかったです。『けん玉チャレンジ』が行われる歌手の三山ひろしさんの曲が始まったのは午後10時過ぎでした。僕の位置は、平場ではなく、階段を数段上がった端っこ。照明もまぶしくて、音も大きくて、緊張で自分の心臓の鼓動が聞こえました。「キメなきゃ」という一心でした。しかしチャレンジは失敗……その瞬間、玉は左側にこぼれ落ちました。会場の雰囲気のにまれて、平衡感覚を失ってしまい、やる前にふらついてしまいました。玉を上げた時、自分としてはまっすぐのつもりだったんですけど、ちょっとズレていたんですよね。そのまま乗っけようとしたら、玉が皿のふちにカンと当たって、はじいてしまった。頭が真っ白になりました。「ワーっどうしよう」と思ったけれど、決まり通りに、こぼれた玉は手で皿に乗せて正面を向きました。それからは落とした実感がどんどん沸いてきて、手が震えてきました。最後に、歌手の三山さんが大皿に玉を乗せると、ギネス審判員からいったんは「世界ギネス記録」に認定されましたが、審判員がモニターで確認したところ、僕の失敗が判明。約50分後に番組内で記録が取り消されました。



僕が楽屋に戻ると、100人以上のメンバーが全員座って待っていました。みなさんに謝りたいという気持ちが真っ先に出て、『すみませんでした！』とその場で土下座しました。みんな誰一人、僕を責める人はいなくて、逆に拍手してくれました。『落ち込まないで』『今後も辞めないで続けてほしい』と励まされました。DJ KOOさんはハグをしてくださり、『落ち込まないで次も挑戦してほしい』と言ってお菓子をくれました。本当にみんな温かくて、それで救われたところがありました。

でも、1月3日くらいまで、ずっと部屋にいて布団の中で引きこもっていました。『このままではいけない』と思って、家族やいろんな人と話すうちに気が楽になりました。今は普通に仕事をしています。周囲からは「謝らなくていい」とさんざん言われます。でも、僕は謝らなくてはいけないと思っていて、チーム全員で挑戦しているからこそ、謝罪も必要な工程です。かといって、ずっと暗くしてはみなさんに悪い印象を与えてしまうし、これからけん玉を始めようとする人が、どんどん離れていってしまう。なので、きちんと謝る姿勢は示したうえで、けん玉の活動を楽しんでいくのが僕の使命だと思うようになりました。

(AERA dot. 編集部・上田耕司)

この記事を見て、ほっとしたと同時に、しゅんさんと言う人は、どうして前向きに歩みだせるようになったのか不思議でした。こんな辛い出来事が生じると、人は、失敗した後悔ばかり考えるものです。この辛い出来事は“人生からの問い”だと考えたようです。

“けん玉の活動を続けていく使命” しゅんさんが見つけた人生からの問いに対する答えです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

[1年間お読みくださった方に感謝します。](#)